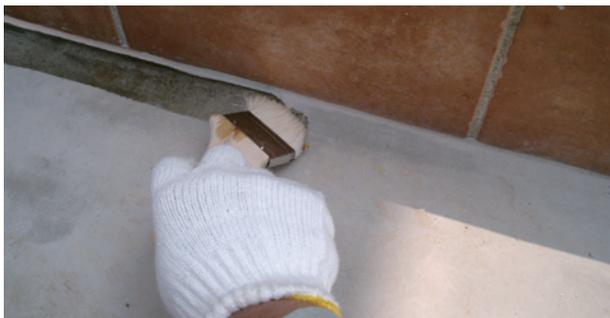


1. プライマー塗布



- プライマー塗布はコンクリート・モルタルと骨材との接着強度を増す為に行います。箱を開けてプライマーを取り出し、プライマーをローラー皿等に移します。



- 端部などは廻りを汚さないように刷毛を使用してプライマーを塗布します。

※石、タイル、モルタル、ピンコロ石等に付着するとシミになり除去ができなくなってしまうので5mm程度隙間を開けて塗ってください。
(テープで養生しても、テープから浸みこむ場合があります)



- プライマーはローラー又は刷毛で塗布してください。
- 吸込み量の少ない下地については、1回の塗布にしてください。ただし、吸込み量の激しい下地については、2回以上塗布してください。

※塗布直後は靴の裏にプライマーが付着して、周囲を汚してしまうことがありますのでご注意ください。
※塗布後は乾燥させてから次工程に移ってください。塗布後、乾燥までの時間は夏期1時間、冬期2時間以上が目安です。
※プライマーが溜まっている場合、または塗布し過ぎた場合は、ウエス等で拭き取ってから骨材の塗り付けを行ってください。

2. 樹脂の混入と混練



- 練舟に骨材1袋に、バインダー（樹脂）1パックをすべていれます。

※2セット以上混練する場合は、あらかじめ骨材とバインダーの数を確認してください。
※パックを折りたたみ、バインダーを完全にしぼり出してください。（樹脂不足による骨材剥離の原因になります。）



- 骨材に樹脂が均一に混ざるまでクワでよく混練してください。

※混練が不十分な場合、強度不足や発泡の原因となります。
※セット以外の物は絶対に混入しないでください。

- ノンスリップ仕様の場合は必ず、骨材と樹脂の混練後に、ノンスリップ骨材をふりかけ再度よく混練してください。（ノンスリップ骨材がムラになるのを防ぐためです。）

骨材と樹脂の混練の注意点



- 数量を多く混練するには、モルタルミキサーを使用すると便利です。

※混練後の放置、混練ムラによる樹脂だまりがあった場合は発泡の原因になりますので注意してください。
※ハンドミキサー（中・高速）を使用しての混練は樹脂だまりがでやすいため、使用しないでください。

3. 骨材の塗り付け



- 混練した骨材は、すばやく2分石は8mm厚、3分石は10mm厚平均で塗りつけてください。

※一箇所に放置しておくと、樹脂だまりができて発泡の原因になるので、放置しないでください。
※他の部材等にバインダーが付着すると、その箇所が変色や染みになって除去できなくなる場合がありますので、十分注意して施工してください。
(テープで養生しても、テープから浸みこむ場合があります)

- 混練後の可使用時間は、一般用（30℃）約50分。冬用（15℃）約40分ですので、時間内に施工を終了してください。

※練舟・モルタルミキサーに残っている骨材をかき出すときは、樹脂だまりができているため、一度混練してください。



- 彩専用洗浄剤を含ませた刷毛等で金ゴテを拭き、コテ切れをよくしてください。

※コテに樹脂が付着しているとベタツキが残り骨材を引っ張ってしまい、石が立ってしまいます。



【別売品】

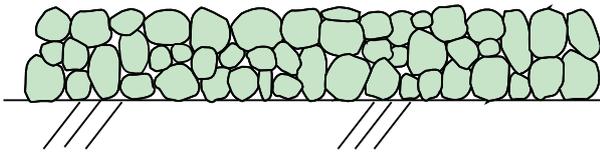
- 金ゴテでよく押えて表面を密にします。

※最後の押えは必ず、彩専用洗浄剤で金ゴテを拭き、石が立たないように施工してください。
※骨材の塗り付けが悪いと、目詰めを行った場合、仕上がりがムラの原因となります。



骨材塗り付け状況

■ 良い例

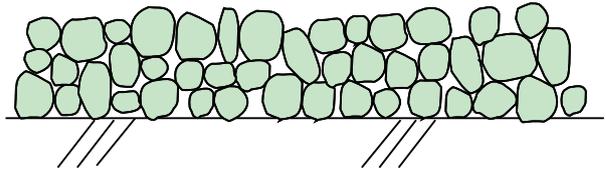


- 緻密な状態
- 骨材が押さえられている

目詰めをして仕上がった状況



■ 悪い例



- 押さえ込み不足で骨材の不揃いがある。
- 骨材が立っている

目詰めをして仕上がった状況



発泡対策



- 樹脂だまりがあると発泡がでます。

※発泡を放置しておくと、このまま硬化してしまいます。硬化した発泡箇所はハツリ取り再施工してください。

- 発泡は施工後1時間～2時間で発生します。



- 硬化前なら発泡は消すことができます。

※発泡を発見したらすぐに彩専用洗浄剤を刷毛に含ませ、発泡した箇所を上から軽く叩くようにし発泡を除去します。※刷毛を横に動かすと、硬化前の骨材が動いてしまうため避けてください。

4. 養生



● 養生時間

夏期： 12時間以上（翌日以降）

冬期： 36時間以上（中1日以上）

**お疲れ様です。
本日の工程はここまでです。**

養生時間をおき、樹脂が完全に硬化し、べたつきがないことを確認してから目詰めの工程に移ってください。



5. 目詰め材の混練

夏期：翌日以降 冬期：3日目で以降



●目詰め材1袋に対する水量

- 2分石
一般用・冬用共通…1.2kg～1.3kg
- 3分石
一般用・冬用共通…1.6kg～1.7kg



目詰め材の水量を測る際、台秤がない場合は、付属の水計量袋を使用して水量を一定にしてください。

※必ず規定量の清水で混練して下さい。
※水量を一定にしないと目詰め材の色ムラ、白華の原因になります。



●ハンドミキサーでダマができないように十分に混練してください。

※着色タイプ（TX-000BK, BR, GR, YE）の場合は先に付属の顔料を混練水の中に混入してよく攪拌してください。

使用材料



6. 目詰め材の流し込み



●練り上がった目詰め材はしまりが早いのですぐに広げ流してください。

●広げ流すにはゴムレーキがあると便利です。ゴムレーキが無い場合はゴムゴテで行ってください。

※夏期の施工で、塗り付けた骨材表面が熱くなっている場合は、施工を避けてください。

7. 目詰め材のかき出し



- 目詰め材を広げ流してから5分～10分後に、目詰め材の余剰分を彩目詰ゴテ、またはゴムゴテのフチを使ってかき出します。

「彩目詰ゴテ」の場合

通常とは逆方向にゴテを動かして下さい。ゴテを斜め45度に立て、矢印の方向へかき出して下さい。

「ゴムゴテ」の場合

ゴムゴテを出来るだけ直角に立て、縦・横方向へ矢印の方向に直線的にかき出して下さい。扇状にかき出すと仕上がり後跡が残る場合があります。

※ゴムゴテが劣化していると十分にかき出し出来ない可能性がありますので、なるべく新品をご使用下さい。

かき出し状況

- 石目を均一に出します。
かき出しが不十分だとムラがでることがあります。

※かき出しが遅れると、目詰め材が硬化しはじめますので早く行ってください。

8. 目詰め材の拭き取り



- かき出し後、30分～1時間で水分が引いてきます。目詰め材が締まってきた段階（白くなる前）で拭き取りを開始して下さい。

※真夏の場合は、乾燥が極端に早くなります。一度に施工する目詰め材の量は1㎡ずつ様子を見ながら調整して下さい。
※拭き取りが遅れると、目詰め材が固まり拭き取れなくなります。

- 水をつけ、固く絞ったスポンジで拭き取ります。ムラが無くなるように丁寧に拭き取ります。

※絞りがあまく、水をつけすぎると白華の原因となります。

- スポンジで円を描くように拭き取ります。かき出しが甘いところは少し力を加えることで石目を出すことが出来ます。全体が均一の石目になるように調整して下さい。

乾燥後 セメントが乾き色になります。（環境により濃淡差があります）

かき出し・拭き取りの加減で仕上がり差が出ます。



石目をしっかり出した仕上がり



石目を抑えた仕上がり

※目地材の色ムラの原因

- ・水比が一定ではない
- ・施工日が違う
- ・日当たりの違い
- ・乾燥前にものを置いていた
- ・塗り手が違っていた
- ・白華によるもの 等

9. 仕上げ拭き

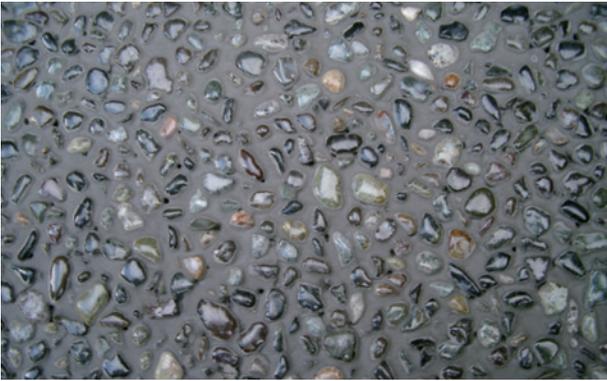


- スポンジの拭き取り後30分～1時間で再度石の表面が白くなります。



- 仕上げ拭きは乾いたスポンジ、ウエスで石の表面についた目詰め材のセメント粉を拭き取って仕上がりとなります。

10. 施工完了

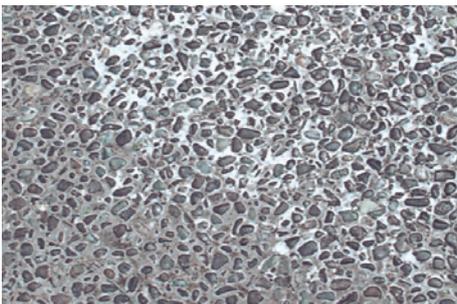


- 石に艶が出てきてます。

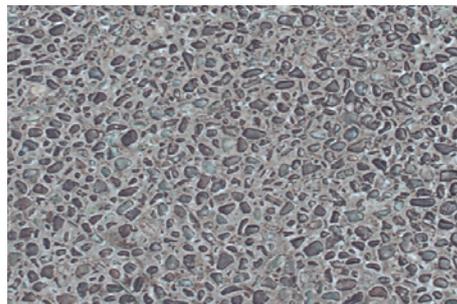
※目詰め材はセメントを使用しているため 施工条件等により、白華が出る場合があります。

白華の対処法

もし白華が出てしまった場合スーパーエフロクリーン（別売）で白華を除去できます。



洗浄前

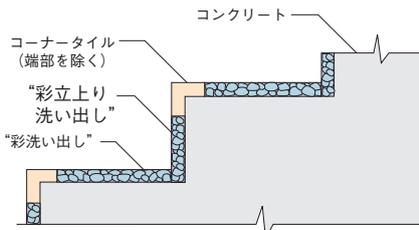


洗浄後



納まり

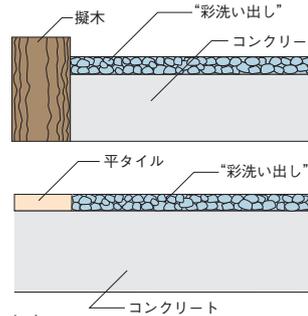
●階段（出隅）の仕上げ



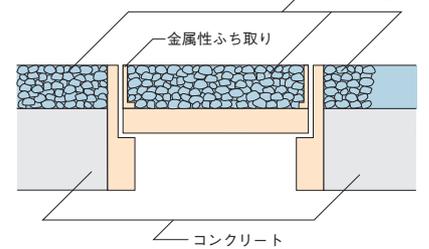
段鼻部はコーナータイルが平タイルを貼り、仕上げを行ってください。

●縁まわりの仕上げ

“彩洗い出し”の端部は、ボーダー・タイル・緑石・擬木などで処理してください。



●ふたまわりの仕上げ



“彩洗い出し”の端部には、ステンレスか真ちゅうのふち取りを施します。また、ふた部分にはL字型のふち取り材を接着し施工します。

●区画目は原則として、コンクリート目地に沿って設置します。

※立上りには、「彩立上り洗い出し 1㎡セット (8mm厚)」があります。 ※排水設備は必ず設けてください。

施工上の注意事項

骨材の塗り付け工程

- 他の部材等にプライマーやバインダーが付着すると、その箇所が変色や染みになって除去できなくなる場合がありますので、十分注意して施工してください。(テープで養生しても、テープから浸みこむ場合があります)
- 下地の含水率が高い状態でプライマーを溜まるほど塗布すると、接着強度が落ちる場合があります。
- 雨の日の施工、未乾燥下地の施工は、正常に硬化しませんので避けてください。また、未硬化のうちに降雨の恐れがある場合の施工も避けてください。
- 骨材、目詰め材は絶対に濡らさないでください。もし骨材が水濡れした場合は、広げて十分に乾燥させてください。水に濡れた目詰め材を使用すると、硬化不良になる場合があります。
- 強風などにより、硬化前にホコリやゴミが付着する恐れがある場合は施工を避けてください。
- 夏期の直射日光下に材料を長時間置きますと、材料温度が高くなり、可使用時間が極端に短くなるため、保管場所にご注意ください。
- 夏期、35℃以上の炎天下での施工は、可使用時間が極端に短くなるので、早朝か、夕方など気温が下がっている時に施工してください。
- 冬期、気温5℃以下での施工は避けてください。
- バインダーが肌に付着しないようゴム手袋を使用し、万一肌に付着した場合は、石鹸ですぐに洗い流してください。
- バインダーを使用した用具は「彩専用洗浄剤」で良く洗ってください。

目詰め工程

- 目詰め工程に入る前に下記事項に注意してください。
 - 樹脂が完全に硬化しベタつきがないことを確認してください。
 - 降雨などにより、塗り付けた骨材の表面や空際に水が残っている場合は、目詰め工程には入らないでください。白華・浮きの原因となる場合があります。
- 目詰め材は絶対に濡らさないで下さい。濡れた場合は使用できません。
- 車などの重量物の通行には、3日以上(20℃)の養生期間をおいてください。

【注意書き】

【安全対策】

- 容器を密閉しておくこと。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護マスク、保護衣を着用すること。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 粉じん、蒸気、ミスト、スプレーを吸入しないこと。
- 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 取扱い後は良く手や顔、眼を洗い、うがいをすること。
- 環境への放出を避けること。
- 水・アルコール類・アルカリ性物質との反応するので、密閉容器中でこれらのものと混合しないこと。

【応急措置】

- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合、直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
- 皮膚または髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎまたは取り除くこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合、口をすすぐこと、無理に吐かせないこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- 暴露またはその懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること。
- 漏出物は回収すること。

【保管】

- 容器を密閉して、涼しく換気の良いところで施設して保管すること。
- 子供の手の届かないところに保管すること。

【廃棄】

- 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

※詳細な内容は、安全データシート(SDS)をお読みください。

- ・骨材は天然石のため、ロットにより多少色調の違う場合がありますのでご注意ください。
 - ・骨材は天然石のため、錆が出る場合があります。
 - ・骨材1袋を全量を練らない場合、バインダーの量は骨材に対して、重量比で4.5%(2分石)、3.5%(3分石)としてください。
 - ・酸性の影響によっては骨材が欠けたり、目地材がやせたりする可能性があります。
- ※商品の仕様等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。



ヤブ原産業株式会社

本社 / 〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546
☎ 048(297)4111 Fax 048(290)1198
URL <http://www.yabuhara-ind.co.jp/>
E-mail hanbai@yabuhara-ind.co.jp